

詩

〈小学1年生・2年生〉

特選

ちかみちなんかしらないよ

城東小学校1年

熊谷

政宗

ともだちのおうちにいき
おわたらちかみちしよう
ちかみちしたら
はやくおうちにかえられるから
ちかみちしよう
でもぼくは
ちかみちなんかしらないよ
だっておばけにであうかもしれないから
だからちかみちなんかしらないよ

(評) ちかみちをしたいという気もちと、ちかみちはしないという気もちのゆれているようすが、よくあらわれていますね。すなおな気もちがよく書けていると思います。

(彦根文芸協会 西村 和野)

特選

さくらら

若葉小学校2年

中道

結

さくららって
春のおわりでかれちやつて
つぎのなつにはもうさかない
はなびらものこらないけど
つぎの春にはまたあえる
そのときまではまつてよう

さくららとわたしが小さいころに
とったしゃしんのことをおもいだして
入学しきでみたときの
さくららのことをかんがえて
またさくららが見られることをかんがえて
ずっとずっとあたまの中は
さくららといっしょ
いつまでもわすれられない
大すきなさくらら



(評) 「さくらら」と「わたし」が同じように共に生きていけると考えられることがすばらしいですね。友だちとおはなししているようで、幸せな気もちになれる詩です。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

こい

亀山小学校1年

田中

美結

きれいな水が
こいといっしょに
ながれてく
すいすいとおよいで
うれしそう
見ているわたしも
うれしいよ

(評) くらしの中でなにげなく見る池のコイ。そのようすを「すこい」と発見したことはすばらしいかんさつだと思えます。コイの気もちになつて書かれているのがいいですね。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

なんて日だ

若葉小学校 1年

山本 健斗

一日中わらわれるなんて
きようはなんて日だ
一日中なんにもできないなんて
きようはなんて日だ
一日中おいかけるなんて
きようはなんて日だ
一日中おとうさんとあそべるなんて
きようはなんて日だ

(評) 毎日のくらしのなかで、「なんて日だ」と思うことを詩にしてくれました。たいへんだった日も、「なんて日だ」と力づよいことばで表わされていますね。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

べんきょうがんばった

城西小学校 2年

瀧波 はるか

国語のべんきょう
がんばった
字をかくのを
がんばった
字が
きたない
きたない
言いながら
がんばった
そしたらやつと
きれいにかけた
わたしが
その時
がんばったと
じぶんでじぶんに
言った

(評) べんきょうをがんばっているようすが、よく書かれていますね。詩もとてもよくがんばって書いてくれました。このちょうしで、がんばってください。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

友だち

城西小学校 2年

花見 悠理

友だちできたらなにしよう
あつ
あの子
友だちになつてくれそう
あの子
ひとりぼっちだ
「いっしょにあそぼ」て
いってあげたら
友だちになつてくれるかな

(評) お友だちになつてくれるかな、という気持ちが、すなおに表わされて、ドキドキする気持ちが伝わってきます。

(彦根文芸協会 西村 和野)



準特選

さかなはずい

城東小学校 2年

東川 拓翔

コイは すごいね
 からだがね
 ダイヤのもよう
 コイ すごいね
 いきがね
 いつまでも
 みずのなかにいるんだもん
 「くるしくないのかな」
 「くるしくないのかな」
 コイはずいんだ
 かわいいな

(評) こいが気もちよさそうで、この詩をよむと読む人まで心がきれいになるようです。水がきれいという発見が、すべてをきれいにしていきますね。すなおですがすがしい詩ですなね。

(彦根文芸協会 西村 和野)

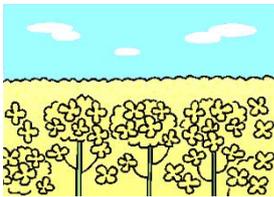
佳作

空とかぜとはなびら

城東小学校 1年

藤田 こなつ

空は
 ずっとずっとつづいてる
 空のあおは
 ずっとずっとつづいてる
 どこまでもつづいてる
 かぜもいっしょかな
 かぜは
 はるをはこんでくれる
 かぜは見えないけれど
 かぜと空はともだちだ
 はなびらは かぜといっしょ
 「はるよ こいこい」
 と よんでいるかもね



佳作

でんわはずい

城東小学校 1年

大藏 茉里菜

でんわ でんわ なんでもできる
 すごいな すごいな
 プルルプルル
 いい音ね
 わたしもいっしょに ルルプルル
 またまたいい音ね
 いつもいつもいい音ね
 森のどうぶつも
 耳をすましてきいててね
 プルルプルル ルルプルル
 いい音ね
 たのしい音がく かなしい音がく
 きみと森のどうぶつは
 どっちがすきかな
 わたしは どっちも大すき
 でんわでんわ
 プルルプルル プルルプルル
 いい音ね

佳作

がつこう

城東小学校 1年

村川 萌々子

大きいな
大きいな
大きいな
学校って大きいな
なんでそんなに大きいの
なんでだろう
おねえちゃんが教えてくれた
みんながべんきようするからだよ

佳作

音がく会

城南小学校 2年

山口 桜都

今日はたのしい音がく会
がつきがみんなあつまつたよ
ピアニカ たいこ シンバル
てつきん もつきん タン布林
いろいろあるね たのしいね
みんなの音色が
まぎって まぎって
すてきな音がく会

佳作

ランドセル

城東小学校 1年

杉本 源

おもたいな
おもたいな
ランドセル おもたいな
ランドセル おもたいな
なぜかってもうぼくは一ねんせいだから

佳作

わたしがじつちよりんだったら

高宮小学校 2年

小中 結来

わたしがじつちよりんだったら
かぞくとブドウの家をつくるよ
その家でみんな
おいしいごはんをたべるよ
そしてみんなとあそぶ
はっぱのすべりだいを
ゆれる花にのってブランコをする
じつちよりんは 小人
小さいから何でもできる

佳作

先生がかていほうもんに来た

城西小学校 2年

西川 奈穂

先生がかていほうもんに来た
先生がマンションの中へはいった
わたしたちのへやへはいった
リビングへはいった
リビングの戸びらを
おかあさんがしめながらこう言った
「自分のへやでべんきようしてなさい」
おわるまでべんきようをしようと思ったら
リビングから
わらい声がきこえてきた
はいってはいけないと言われたので
まっていた
十分ぐらいたったら
先生とおかあさんが
リビングから出てきた
やっぱりわらうぐらいの
話をしていんだと
わたしは思った

佳作

家ぞくのみんな

城西小学校2年

房野 ななみ

わたしの家ぞくは
四人家ぞくだ
おとうさんは
あまい
おかあさんは
からい
おとうとと
けんかした
ほんきで
けんかした
かったのは
わたし



佳作

ほこりつけたのだけ

城東小学校1年

加藤 凜

ほこりをつけたのだけ
ぼくだよ
そうなの
なんでつけたの
なんでかって
おもしろいから
そういつて
ほこりはひらひらとんでった

佳作

どこんじよう

高宮小学校2年

丸山 勇氣

ぼくが
どこんじようのある人だったら
いろいろなことをたえたいな
さむさやあつさをたえたいな
パンチをくらつてもたえたいな
つよいどこんじようが
あつたらいいな

入選

あきのあしあと

城東小学校1年

馬場 裕士

あきのあしあと
小学校がおわつたら
おちばだらけになるのかな
あきのあしあと きれいだね
おちばだらけできれいだね
いろがある
おちばにはいろがある
あか き ちやいろ
いろんないろできれいだね
いっばいあつてきれいだね

入選

せかいじゆう

若葉小学校1年

秋山 愛莉

せかいを たびしてみたいな
せかいには
どんなどうぶつがいるんだろう
たくさんのどうぶつと出あつて
なかよしになりたいな
ぞうのせなかにも
のつてみたいな

入選

あめさんだ

城東小学校1年

林

向日葵

あめがふれ
あめがふれ
みずたまりであそびたいな
あめがふれ
あめがふれ
かえるさんとあそびたいな
おたまじゃくしさんとあそびたいな
たのしそうだな
あめであそびたいな
あめやめ
あめやめ
あそぶのたのしみだな

入選

ブランコ

城東小学校2年

北川

那奈

風にのったら
高く高く
青空をとんでいるみたい
もう一回のったら
どこまでとぶの
つぎはつぎは
空のふもとまでとぶの
たのしいな
たのしいな
たのしいな

入選

どんぐり

若葉小学校1年

三澤

愛恋

どんぐりひろったよ
ころころしていてかわいいな
どんぐりでなにつくろう
ネットレスをつくろう
ひもをとおしてできあがり
かわいくできたよ

入選

はっば

城東小学校1年

田中

彩翔

みどりのはっば
きいろのはっば
赤のはっば
みどりときいろが
まざったはっば
赤ときいろが
まざったはっば
いろがまざったはっば
ぼくはどのはっばもほしいな
どのいろもきれいだな
ぼくも
はっばをあつめにいこうかな
いろがまざったはっばもほしいな
ぜんぶほしいな
ぜったいぜんぶほしいな
もつともつとほしいな



入選

ランドセル

城東小学校1年

橋村

空

うれしいな
かったばかりのランドセル
おもたいけどうれしいな
きょうかしょもらって
ランドセルのなかにいれると
おもたいな
ふでばこかってもらった
いっしょにふでばこいれると
おもたいな
でもぼくは あしたから
一ねんせい



入選

わたしが花やさんだったら

高宮小学校2年

村

和紗

わたしが
花やさんだったら
黄色とピンクの花ばかりを
お店にならべるかもしれない
黄色とピンクの色がすきだから
黄色は
たんぽぽ なのはな
ピンクは
コスモス モモの花
どれも大すきな花

入選

カマキリ

若葉小学校1年

有馬

太陽

かおがおもしろい
かまがかっこいい
くびがながい
しりが大きい
はねが大きい
足がながい

入選

ぼくが小人だったら

高宮小学校2年

筒井

翔太

ぼくが小人だったら
虫にのりたい
バッタにのったら
ジャンプできる
てんとう虫にのったら
外をとべる
ダンゴ虫だったら
石の下に入れる
いろんなところをぼうけんする
ウキウキ たのしい

入選

ふとん

城東小学校1年

将亦

莉星

ふとんはきもちいね
ほしたらぼかぼか
おひさんありがとう
ぼくはふとんが
すきなんだ
みんなも
だいすき
ぼかぼかふとん

入選

貝がら

城東小学校2年

北村

ミミ

貝がらは
人魚がのこした
たからものかな
それとも
なみだがくれた
プレゼントかな
いろんな 貝が
あるけれど
海の貝が 一番だ

入選

やきゅうせんしゅ

高宮小学校2年

松田

湊

ぼくがやきゅうせんしゅだったら
入るチームはタイガース
ポジションは ピッチャー
一しあいぜんぶなげきつて
かんぜんじあい
おにいちゃんにはべつのチームだ
おにいちゃんとたたかって
三しんをとる
めざすはリーグゆうしょう

入選

たいよう

高宮小学校2年

江龍

なを

わたしが
たいようだったら
みんなを
よろこばせるように
光をてらしたい
さむがつている人は
光であたためたい
せんたくの多い人には
せんたくものを
かわかしてあげたい
やさしいたいようにな
りたいな



入選

おくりもの

高宮小学校2年

中田

優菜

なつがきたらあつくなる
ふゆがきたらさむくなる
あついのも
さむいのも
みんなだいじなおくりもの
春は花
夏はかきごおり
秋はまつり
ふゆはこたつ
きせつは
だいじなおくりもの
いのちも
空からのおくりもの
友だちやわたしのいのち
だいじにしたいな

〈小学3年生・4年生〉

特選

ビー玉

城南小学校3年

幸重

季空

とてもあつい日
ビー玉をグラスに入れると
キラキラかがやき
すずしい気がした

その中から一つだけ取り出して
かた目でビー玉をのぞいてみると
ビー玉の向こうは
いつものけしき

だけどいつものけしきが
いつもとちがう
ぼくは少しだけ

ビー玉のけしきでずすしくなった

(評)

あつい夏の日、ビー玉に涼しさを見つけ、グラスの中に入れたり、片目で向こうをのぞくなど、自分のはたらきかけを通して、いつもとちがうけしき、ちがう自分まで見つけています。同時に応募された「月食」の詩も作者の感じ方が光る作品でした。

(彦根文芸協会

谷口

明美)

特選

塩にぎり

城東小学校4年

伊藤

慶勇

ある夜 おかまをのぞいた
むぼうびなじようたいで

ごはんはぼくをさそってくる

ぼくに「食べて下さい」と

そしてぼくは手に

塩をぬった

ぼくは塩のついた手に

とびつきり多くご飯をのせた

その後

ぼくは調度いい具合にぎった

最後に大きな声で

「いただきます」を言った後

大きな口で塩にぎりをほおぼった

(評)

「ごはんはぼくをさそってくる」「食べてください」という感じとり方や表し方に、おなかをすかした作者が、ごはんをのぞくうれしそうなおまじきまで見えてきます。「むぼうびなじようたい」とは、大人のようなとらえ方ですね。

(彦根文芸協会

谷口

明美)

準特選

すばらしき沖繩

城東小学校4年

山田

楓勇紀

沖繩はすばらしい
海もホテルもきれいだな
旅行者もびつくりするほどきれいだな
エメラルドビーチは太陽あびて
きらきら宝石みたいな美しさ
パイナップルもおいしいな
シーサーは沖繩代表守り神

沖繩はすばらしいね

日本軍敗北 大和ちゃんぼつ 特攻隊

悲しい島でもあるけれど

なぞだ よなぐに島海底いせき

いつか そのなぞといてやる

沖繩の名物サトウキビ パイナップル

昔の人も食べたかな

夜はレアな生き物 きれいな星

台風の通り道さ

旅行は一人じゃ

ぜったい楽しくない
みんなであなくちや楽しくない

(評)

「すばらしい」「すばらしい」と深く感動しながら沖繩の美しい海や空、おいしい産物、さらには悲しい歴史やいせきにまで、広く目を輝かせ、沖繩が大好きになりながら、感じとり学んできた旅行のようすが生き生きと書かれていて、読者の心までさそいます。

(彦根文芸協会

谷口

明美)



準特選

パパと自てん車

平田小学校3年

出口 大和

パパが買ってくれた
新しい自てん車
パパがいつしよに
練習してくれた
がんばろうと思った

パパが

「手をはなすよ」

と いった

あつ ひとりでのれた

ゆめかなと

ほっぺをつねった

いたかった
ゆめじゃない

こわくてのれなかった

自てん車

パパ

「ありがとう」

(評)

「ゆめかなとほっぺをつねった」という表現から、夢中になって練習して、やっと自転車に乗れた作者の喜びが強く伝わってきます。また、パパの「手をはなすよ」という言葉からもお父さんのいっしよけんめいな気持ちまで見えてきます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

夏の空

城南小学校4年

岡田 みのり

すいこまれそうな青色を
だれがぬったんだろう
通りぬけていった風？
それとも雲？

ピッカピカな白色を

だれがせんたくしたんだろう

通りすぎていった雨？

それとも海？



(評)

青色や白色を「だれがぬったんだろう」「だれがせんたくしたんだろう」と、ふと立ち止まった作者の感じとり方、想像する力に目を見はらされました。読み手も、作者の問いかけに乗せられてしまいます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

お花のえ顔

金城小学校4年

宮川 あかり

お花がわらう
わたしには分かる

お花が

わらっているように見えると

わたしまで

なぜかわらってしまう

お花は

いつもわらっている気がする

わたしもお花のように

いつまでもわらっていたい

(評)

ただ「きれいだな」と見すごしてしまわずに「お花がわらう わたしには分かる」と、花に心を動かして深くやさしく語りかけるような作者の花へのかかわり方から、この詩は生まれています。花と作者の温かい会話が聞こえてくるようです。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

わかば

城東小学校 4年

福原 恵実

木の根に
小さなわかばがはえる
深い緑のきれいな はっぱ
うすい緑の小さな はっぱ
雨のしずくが
キラリ と光る

わたしの中にもわかばがはえる
ふわふわふくらむ
やさしいわかば
ちくちくささる
いじわるわかば
わかばは小さな
私の 心
やさしい わかばも
いじわる わかばも
育てていくのは 自分だよ

(評) 木の根に生える小さなわかばから、「わたしの中にもわかばがはえる」こと、そのわかばには「ふわふわ」も「ちくちく」もあることを見つけています。最後の三行は、『ふわふわわかばのわたし』がした『やさしい行い』で結べるといいますね。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

佳作

音楽会

城南小学校 3年

勝木 藍

音楽会すぐきんちようした。
ステージに立ったら
お母さんが手をふっているのが見えた
もつときんちようした
ちよつとわらいそうになった
でも、それをがまんした
リコーダーが終わって歌にかわった
しきの先生がむねをトントんとたたいた
自しんをもつていこう
と、思った
歌いはじめるときんちようが
楽しい気持ちにかわった
大きな声で楽しく歌えた
終わったらすごくすつきりした
気持ちになった



佳作

マラソン

城西小学校 3年

小川 朋子

ある秋の日 前から風がやってくる
ひっしに走ろうとがんばる私
でも足がなかなか前に進まない
困った 困った どうしよう
自分のタイムときそい合う
ライバルぬかして ああ いい気持ち
家族も応援してくれる
一生けんめい走るんだ
風に向かってつきすすむ
自分に がんばれとささやく私
息が切れて来て ライバルにぬかされる
悔しくて悔しくて 思いっきり走る
がんばれば できるんだ
本気を出そうと思ったとき
ころんでしまった私
でもすぐ立って
思いっきりライバルぬかし つつ走る
もうすぐゴール
タイムと順位が気になるよ
家族も横で応援してるその時・・・
ゴール ゴールが できた うれしいな
結果は さいこうに よかったよ

佳作

どうして物はなくなるの

若葉小学校3年

福田 菜々子

どうして物はなくなるの

かあさんがすと見つかるのに

だれかがかくしているのかな

それとも物がにげてるのかな

考えてみるとすつごくふしぎ

つくえにおいたはずなのに

すぐになくなってしまうもの

えんぴつなくすと勉強できない

物をなくすと本当にこまるね



佳作

ころもがえ

平田小学校3年

外川 陽南乃

春

木にはきれいな花がさく

わたしの服も花がさく

夏

緑の服に ころもがえ

わたしの服は うす着になる

秋

赤 黄 茶色でカラフルに

わたしの服は 冬のじゅんぴ

冬

葉っぱもおちてごごえてる

わたしの服はモコモコポカポカあったかい

春 夏 秋 冬

木も

わたしも

ころもがえ

佳作

めざましどけい

城東小学校4年

山田 蒼葉

起きて 起きて

朝ですよー

いつもベルを鳴らすのに

だれも起きてはくれないの

どうしてかしら？

さあもう一度

起きて 起きて

朝ですよーっ

起きて 起きて

朝ですよー

今日もベルを鳴らしてる

おやおや今日は起きてきた

よかったわ

でもどうしてかしら

なんと今日は遊園地

楽しみだから起きたのね

佳作

家族の手

城東小学校 4年

井入 聖奈

お父さんの手 冷たいな
お仕事がんばっていること
すぐ分かる ありがとう

お母さんの手 いいにおい
せんたくしていること
すぐ分かる やさしい手

お兄ちゃんの手 あったかい
困った時に助けてくれる強い心
すぐ分かる たのもしい

弟の手 小さい手
守ってあげなきやいけないこと
すぐ分かる かわいいな

わたしの手 大事な手
大切なゆめをつかみとる まほうの手



佳作

スイートポテト

城東小学校 4年

安齋 来花

わたしの
大きいなおばあちゃんの
スイートポテト

ピカピカ ほかほか
みんな取り合い
わたしにも
作ることができない
お母さんにもね

わたしの
大きいなおばあちゃんの
スイートポテト

黄色い ふわふわ
みんな大すき
お姉ちゃんにも
作ることができない
お兄ちゃんにもね

きっと世界でこんなに
おいしいスイートポテトを作れるのは
おばあちゃんだけ
きつとね

佳作

家族

城東小学校 4年

岡本 世翔

お姉ちゃんいてよかったなあ
遊んでくれるし
教えてくれる

そんなお姉ちゃんのお妹でよかった
妹いてよかったなあ
妹といるとなんだか楽しいし
気もちがやさしくなる

そんな妹のお姉でよかったなあ
お母さんいてよかったなあ
おいしいごはんを作ってくれるし
だめなことはだめと注意してくれる

そんなお母さんの子でよかったなあ
お父さんいてよかったなあ
遊びに連れてってくれるし

みんなのためにお仕事がんばってくれる
そんなお父さんの子でよかったなあ
わたしこんな家族の子でよかったなあ

佳作

一日のはやさ

城西小学校3年

佐渡

俊介

ぼくは ある日こう思った
一日は速い日とおそい日があることを
とくに一日が速いなーと感ずるのは
遊んでいるとき
一日がおそいなーと思ったときは
けんかしたとき
やっぱり一日の長さは
なぜか気分によつてちがうように思う

佳作

みつけたよ

城北小学校3年

花澤

凌空

大きいぞうあるいてて
大きいくもうかんでて
大きいカーテンしめていて
大きい木たっている

れいぞうこたっている
テレビついている
タンスあけていて
ドアがあいている
きょうは大きいものばかり
みつけた

入選

妹

城東小学校4年

中澤

歩南

妹っていうのは
遊ぶのはとても楽しい
ケンカしてもすぐ仲直り
妹っていうのは
なんてことないことを
聞いてくれる相談相手
私 命令してる？って
妹によく聞く
でも妹は決まったように
言ってくれる
「お姉ちゃん おこるとこわいけど
やさしいよ」と
そんな妹が大好き！
妹っていういな

入選

ピアノ

城東小学校4年

松井

美羽

ポロン ポロン
音がする
ピロン パロン
おもしろい音がする
音がするたび足が動く
タン タン タン
どんどんリズムにのっていく
この音を
ピアノはどう思っているのかな
きれいだな 楽しいな
と思っているのかな



入選

春夏秋冬

城東小学校4年

辰野 真末

さくらの木の下
大人も子どももピンクにそまる
春の一日

青い空の下
海ではしゃぐ子どもたち
こんがりやけた夏休み

赤や黄色の葉の下は
ひよっこり顔だす松だけが
あちらこちらに見えている
秋のごちそう

こたつの中
冷たい手足がよるこんで
体ほかほかあったまり
ついついねむるよ
冬の夜

入選

大きいもの・小さいもの

城西小学校3年

藤川 尚暉

大きなものってなんだろう
ぼくたちの大きなものは
きみたちの近くにもある
でも 虫たちにとって大きなものは
ぼくたちにとって小さいものかも
ぼくたちが大きいと思うものは
たてもものにとって小さいものかも
ものやいきものによって大きいものは
みんなちがうんだね

入選

秋の声

平田小学校3年

山田 柑奈

そよそよと
すすきたちの 話声
ちろちろちろと
秋の声たちの
音楽会

入選

ぼくらと彦根城の一年

城東小学校4年

大久保 翔馬

彦根城は
ぼくらといっしょに生きている
ぼくらと共に衣がえ
ぼくらと共に年めぐり
春は桜でピンク色
夏は葉っぱで一面緑
秋は紅葉真っ赤っ赤
冬は雪で真っ白だ
彦根城は
ぼくらと共に生きてきた
彦根城は
これからも僕らと共に生きていく



入選

一日の学校

若葉小学校3年

澤 咲 愛

おはようの一言ではじまる一日
 朝の会 お当ばんさんがすすめるんだ
 そしてじゅぎょう
 すきな教科はうれしいな
 さらいな教科はしょんぼりだ
 やつときた休み時間
 友だちと楽しく遊ぶ
 次は楽しみにしていた給食だ
 今日のこんだてはおいしそうだなあ
 そうじの時間気合いを入れて
 ほうき ぞうきんがんぼるぞ
 5時間目
 6時間目が終わると
 さようならで帰るあいさつ
 一日って早いなあ

入選

飛ぶ

城東小学校4年

三須 麻友香

いつか飛びたい
 空へと飛びたい
 鳥のように
 ちようのように
 つばさがあれば飛べるのか
 いつか飛びたい
 海へと飛びたい
 鳥のように
 とびうおのように
 なにかあれば飛べるのか



入選

あつたらいいな

城東小学校4年

高橋 聖奈也

あつたらいいな
 字が上手に書けるえんぴつ
 あつたらいいな
 話すだけで記録するノート
 あつたらいいな
 おこずかいがふえるさいふ
 あつたらいいな
 空がとべる車
 あつたらいいな
 音の世界
 あつたらいいな
 動物としゃべるちようしん器
 あつたらいいな
 お世話ロボット
 あつたらいいな
 願いをかなえてくれるコピー機
 あつたらいいな
 が止まらない

入選

音

城西小学校3年

前川 悠真

ドククン ドククン 心ぞうの音
ドククン ドククン たいこの音
ガツシャーン われた音
フー フー 息をする音
ピーピー ひよこの鳴き声
今日はいろいろな音を
見つけたよ

入選

かめがすき

城南小学校3年

齋藤 亮太

かめはくさい
でもかわいい
かめはつめがするどい
でもあしはプニプニ
かめはいつものんびり
かめはいつもマイペース
ぼくはそこがすき

入選

わたしのすきな物

城西小学校3年

谷村 和奏

わたしのすきな物は
なっ豆
卓球
うさぎのぬいぐるみ
そして お気に入りの筆箱
これがあるだけで
わたしは幸せ
それと
大すきな家族がいてくれれば
それでいい

入選

秋の風

平田小学校3年

山口 利孝

秋風がそよそよふいている
ぼくらのそばを通っていく
ぼくらの前も通っていく
風が冬をはこんでくる
もう少いで
冬がやってくる



〈小学5年生・6年生〉

特選

空の向こうに

城東小学校5年

大森 菜々子

空の向こうに だれかいる
あれは 神様ではないのだろうか
キラキラ光ってとんでくる
空の向こうにだれかいる
あれは

亡くなったおばあちゃんではないのだろうか
とても やさしい顔してる
空の向こうにだれかいる
あれは 自分の友達ではないのだろうか
みんながえがおで 私を見る
空の向こうにいろんな人がいる
神様
亡くなったおばあちゃん 自分の友達

(評) 仰ぎ見ているのは、はるかな空の向こう、神様や亡くしたおばあちゃん、友達まで見つめてくれていると想像をふくらませ、とても心おだやかな作品となりました。若さあふれる作者に次はぜひ、自分の夢を詩にしていってほしいと思います。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

特選

教室

城東小学校6年

栗田 晴乃

教室って
うるさくてにぎやか
みんなの楽しい声が踊ってる
教室って
静かで真面目
みんなのえんぴつの音がスキップしてる
教室って
とっても落ち着く
教室って
楽しくて 明るい風が吹く

(評) 毎日通っている教室が、沢山の友達と楽しく明るく過ごせる場所であることを作者はリズムカルに表現できました。六行目はこの作品の中では特に弾んで伝わってきて、学ぶことの心地よさを上手に表わしています。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)



準特選

雲

城東小学校5年

内堀 瑤

雲が泳ぐ
空をかきわけ 風にのり
前へ前へと進んでく
それを見た 小鳥が
「私も!!」と
雲のあとを追いかけていく
雲が走る
空をかきわけ 風にのり
みんなそろって大移動
それを見た 木の葉が
「ぼくも!!」と
雲のあとを追いかけていく
雲が踊る
空をかきわけ 風にのり
空飛ぶものは ついていく
地上にいる 人間は
「飛びたい!!」と
うっとりしながら 手をのばす

(評) 雲を観察しながら詩的でスケールの大きな作品だと感じました。最終連の四行目「地上にいる人間」は、作者自身であってほしい。そのほうがより飛翔していく感じが伝わるのではないだろうか。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

ピアノの音色

城東小学校 5年

辻 真央人

ピアノの音色がひびいてる
 家のどこにいても
 ぼくの耳に入ってくる
 ぼくは この音色を
 一人しずかにきくのが好きだ
 ぼくはひけないけれど
 きいているのは好きだ
 この音色には
 つくったしよくにんさんの
 魂がこもっているのが
 つたわってくる
 ぼくはそんなピアノの音色が好きだ

(評) 作者が心をときずませて熱心に耳をかたむけて
 いる様子がよく伝わってくる作品です。七・八
 行目では、ピアノの音に対する思いが修飾し
 たことばの描写がないぶん、よりストレートに
 美しく響いてきます。
 (彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

なみだのしずく

城南小学校 5年

伊村 美玲

私は今 暗い気持ち
 私のなみだ 雨のように 落ちていく
 その時 雨が ふり出した
 ポツポツポツ
 ポツポツポツ
 水しよう玉のように 光りながら
 親友が かさを かしてくれた
 かさを開いた
 そのとたん
 悲しみが ふっ飛んだ
 まるでかさをとじた時に
 ふり落とされるしずくのように



(評) 綺麗な文字で綴られていて、しっとりとした
 読後感のもてる作品でした。悲しみがふっ飛ん
 だ最終連では、なみだは悲しみのためだけにな
 く、親友が登場することで、作者の心の内が見
 えてきてホッとしました。
 (彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

コスモスの花

城東小学校 6年

大久保 真紘

私が笑うと 弟も笑う
 弟も笑うと おばあちゃんも笑う
 おばあちゃんも笑うと
 おじいちゃんも笑う
 おじいちゃんも笑うと お父さんも笑う
 お父さんも笑うと お母さんも笑う
 こうやって 家族みんなの心の中に
 コスモスの花が
 「ぱっ」とさく

このたくさんのコスモスの花を
 家族を失い 悲しんでいる人へ
 つなみにあい 暮らしが大変な町へ
 何かでなやんでいる 県・府へ
 戦争で苦しんでいる国へ
 いじめられている子へ
 なみだを流している人へ
 病気と戦い負けそうになっている人へ
 いろんな人へ届けよう
 そして コスモスの花でいっぱい
 の 平和な世界になりますように

(評) 「絆を正して」読ませる優し気でいて迫力の
 ある作品です。コスモスをただ見ているだけ
 なく、作者の想いがどんだん広がって、その広
 がりの中にコスモスは咲くのですね。季節毎に
 素敵な花をこれからも咲かせ続けてください。
 (彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

秋ってすてき

城東小学校6年

・ 田 紫月

ぼくが思っている秋
あつたかーい 栗ご飯
ぞくぞくする ハロウィン
葉っぱでする 落ち葉の山
どれもこれも
ぼくの大好きなこと

でもね

一番好きなのは

紅葉かな

だって きれいだもん

一人で見ていると

紅葉をひとりじめできる

けどね

みんなで見ると

もつともつときれいに見えるんだ

ぼくは 思うんだ

秋ってすてき

(評)

秋へのあふれ出てくる思いが沢山書かれてい
ます。「栗ご飯」「ハロウィン」「落ち葉の山」「紅
葉」それらを「ひとりじめ」しないで、みんな
で見る事がすてきだという作者の、味わい深い
心の中が上手に表現された作品です。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

佳作

あじ

城陽小学校6年

近藤 真子

おかあさんの おにぎり
おばあちゃんの おにぎり
あじ いっしょ
なんで？
それは親子だからかな
わたしも同じあじになるのかな。

佳作

さきほこれ

城西小学校5年

尾関 悠加

はじめてなのに
ひかれる瞳
紺色の夜空に
黄色い月
チリン
心の鈴がなって
すんだ気持ち
が
ひびいてく
さきほこれわたしたち

佳作

けしゴム

城東小学校5年

中野 愛美

ぼくはどんどんへっていく
どんどん どんどん へっていく
それでも平気さ
だってそれがぼくの指命だから
つかってくれるとうれしいな
けしてくれとうれしいな

ぼくはどんどんへっていく
どんどん どんどん へっていく
それでも平気さ
だってそれがぼくの指命だから
ふでばこにすんでいて
えんぴつという友達がいる
ぼくはどんどん小さくなって
どんどんどんまるくなる
それでも平気さ
それがぼく けしゴムだから



佳作

もみじ

城東小学校 5年

廣瀬

翔大

帰り道

ぱつと目の前にひらひらと落ちてきた
ぼくの手と同じ形の赤いもの

風がふき そらにはいつしゅん絵が書かれた

そう それはもみじの絵

どのもみじも一つ二つちがう色

だけど それは

そのもみじにしかだせない色

木はさびしそうにもみじたちを見送る

その時 ぼくは風の音に乗せられて

「さようなら」

「ありがとう」

「また来年」

という声が聞こえたような気がした

木ももみじも笑っているような気がして

ぼくもなんだか笑えてきた



佳作

不安をやる気に

城東小学校 6年

宮尾

香菜美

人は

どうしよう と思えば思うほど

どんどん不安になっていく

だれかが もう無理だと言え

みんなも

本当に無理だと思えてしまう

人は

がんばろう と思えば思うほど

どんどんやる気がわいてくる

だれかが 一生けん命がんばれば

みんなも

自然に動きだす

自分だけでも始めれば

一人だけでも始めれば

みんなはきつとついてくる

不安はやる気に変えられる

佳作

秋の匂い

城東小学校 6年

川村

穂乃佳

秋というのは とてもいい匂い

どんな匂いかというと

それは・・・

読書の匂い

どんぐりの匂い

おいしそうな果物の匂い

そして・・・

松たけなど きのこの匂い

私は松たけが大好き

そして秋も好き

早く秋が来ないかな？

佳作

蛍の色できれいな夜

城東小学校 6年

北川 敬子

どうして 今日の夜はすぐきれいななの？
 私は わかる
 どうしてだと思っ
 私の大切な人がとなりで笑ってくれてる
 私は とてもうれしい！
 でもね
 君は朝になると
 どこかへ行く・・・
 私は悲しい
 そんな思いも
 あるけど・・・
 夜になったら会えると思えばうれしい！
 蛍よ蛍！
 だから 私は今日も一日がんばる

入選

紅葉のとき

城西小学校 5年

鈴木 仁之助

とうとう紅葉のときが来ました
 早いなあ
 もっといたいなあ
 仲間とのお別れの時期
 つらいなあ
 いやだなあ
 みんなともうちよつといたなし
 先にお別れするのもいやだし
 先にふり返ったら
 春は ぽかぽか
 ぼくたちが生まれたとき
 夏は ギラギラ
 下には カブトたちがミツをすいにきた
 色々とあつたなあ
 葉っぱの卒業
 次は何に生まれるのかな
 ではさようなら

入選

優しさまほう

城西小学校 5年

西村 涼子

「優しさはだれがつくったのだろう」
 「優しさはだれのためにあるのだろう」
 「優しさはなぜあるのだろう」
 そう悩むより
 「優しさはみんながつくったもの」
 「優しさはみんなのためにあるもの」
 「優しさはこれからもっと
 増やすためにあるもの」
 そんなふうに考えたら
 ほら
 きみの未来は優しさでいっぱい
 きみの心も優しさでいっぱい
 優しさはみんな共同共有の
 まほうだよ



入選

うまいごはん

平田小学校 6年

川上 さくら

母がつくるこの味
なんかおちつくこの味
なんでかな？と母に聞く
それはまほうよと返される
でもやっぱり好きだなこの味
てれくさいけどありがとう
うまいごはんありがとう

入選

心の天気

城東小学校 5年

國田 枝梨子

今日はあつたかいといっていたのに…
なんでブルブル寒むいんだろう
たぶん心がくもってるからだ
土日はかぜでねこんでいたからだ
気持ちちがそんなにスキツとしない
気持ちちはやっぱりスキツとさせたい
やっぱり心が晴れないと
ブルブル寒く思うんだ

入選

努力

城東小学校 5年

井入 宗大

ぼくは「努力すればむくわれる」
という言葉が大好きだ
今遊んでいる人よりも
絶対最後は今苦しんでいる人が勝つと思う
つまり
一言で表すと
「楽あれば苦あり 苦あれば楽あり」だろう
あともう一つ
「けいぞくは力なり」という
にている言葉もある
人間途中でさぼったり
あきらめたりしたら終わりだから
最後までやりきった人間だけが
夢にたどりつくことができると思う
だからぼくも
絶対に最後まであきらめない

入選

もつとちようだい たまごやき

城東小学校 5年

池上 琉加

お母さんのたまごやき
平日の朝に目がスッキリ
お母さんのはあまいんだ
毎日形がちがうけど
大きいときがうれしいんだ
お父さんのたまごやき
土日の朝のお楽しみ
たまねぎシャキシャキ
チーズトロン
ボリュームたっぷり
元気はつらつ
お母さんはふわふわで
お父さんは具だくさん
家族そろって ごちそうさまー！

入選

四つの季節

城東小学校6年

宮元

思緒

春：

桜がランドセルの上に

ひらひらひら

動物もみんないっせいに起きる

小さな白色や黄色の花が

パツと笑う

夏：

あせたつぷりになって

がんばる毎日

ぷかぷか浮かぶ浮輪にのって小麦色

夢中になって

すいかがシャキシャキ

秋：

空から降ってきた

赤と黄色の葉っぱ

小さなリスが小さなどんぐりをパクツ

半そでから長そでに衣替え

冬：

初雪がヒラヒラ フワフワ

熱々おでんをフーフー

こたつに入ったら

いつの間にかスヤスヤ

入選

空きびん

城東小学校6年

永松

陸征

本棚に空きびんがある

空きびんには

クッキーのかけら

砂

インクなど

たくさん物がある

それは空きびんの思い出なのです

昔の事を教えてくれる

楽しませてくれる空きびん

これからも空きびん

何かを守ったり

大切な役目を果たしてくれる

入選

秋の空

城東小学校6年

立澤

茉弥

秋の空

美しく赤く染まっていく

みんなで見ている

そのときわたしは

もっと近くに行きたいなと思った

入選

「生きる」って何だろう

城東小学校6年

田音羽

「生きる」って何だろう？

体を動かす事？

息をする事？

頭を働かせる事？

「痛み」を感じる事？

どんな「痛み」にもたえぬく事？

どんなに苦しい時にも

仲間がいると思える事？

仲間を愛し

自分も愛する事？

「生きる」ってどういう意味が

分かった時

人生はよりいっそう楽しくなる

〈中学生〉

特選

僕とボクの世界

ワールド

中央中学校2年

林

稜也

僕はまだ壊せていない
ベルリンにあったような
僕の心の中の壁を

僕はまだ壊せていない
僕はまだ壊したくない
壊れた壁のむこうに
僕の世界を探せない気がして

僕の「心」の中の歴史
それは僕を物語る
一本のペンで紙に刻んだ

“言いたい事を言えない
いつも出しているのはウソのボク”

僕の「心」の中の歴史
消せなくて 変えられなくて
でも歴史はカコ的事
「ミライ」を刻むのは今だから

(評)

「壊せていない」と「壊したくない」の壁の間を行ったり来たりしながら、自分の心に問いかけ続ける。心が成長していくための迷いやゆれ動きが内側に向かうだけでなく、広い世界を視野に入れながら巧みに書かれています。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

準特選

明日に向かって一歩ずつ

彦根東中学校2年

田島

美帆

明日のために
あなたのタスキ
つなげよう

明日はきつと

希望に満ちている

明日に向かって一歩ずつ

明日があるから
生きる力を

持ちつづけよう

明日はきつと

生きる道がある

前を向いて

明日に向かって一歩ずつ

(評)

希望、明日、未来、みんなと一緒に進んでいこうとする応援歌としての姿勢がうまく書けていますが、作者だけに響いてくる感性がどこかに表現されていると、いつそう輝く詩になるでしょう。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

佳作

宇宙人

彦根西中学校1年

下村

陸斗

宇宙人は空を飛ぶ円ばんにのって現れる
宇宙人は人などをつかまえ調べている
そして安全かどうか確認し
安全なら友好関係を築き
危険なら戦争をおこしてほろぼす

と 友達が言っていたが
本当に宇宙人なんているんだろうかと
考える火星人だった



入選

いしきん

彦根西中学校1年

湯沢

零司

こいさん
こいさん
おはよう
おはよう
きもちいいみずでおよげて
いいな
こいたちよ
およぎたいな
およぎたいな
こいみたいにね



【総評】

小学生の部では、学年が進むに従い応募者数
がかなり減っています。学校での学習内容も増
え、塾やおけいこ事に余暇をとられ、時間や心
の余裕がないのかも知れませんが、だからこそ、
時々に見つける目・感じとる心を鋭くし、言葉
にしてめんどうがらずに書きとめていつてくだ
さい。

中学生は勉強や部活動、スマホなどで忙しく、
ゆったりとした読書や想像の翼を広げている時
間など無いのが現実なのでしょう。応募作品が
少なかったのは残念ですが、そんな中で参加し
てくれた人たちには、短い作品の中にもきらり
と光る言葉や感性がたくさん見られました。一
生の糧になる素晴らしい詩や文豪といわれる人
の小説をたくさん読んでほしいと思います！

(彦根文芸協会 谷口 明美)
(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

